

東葛しぜん観察会 自然観察おもしろ講座

タネが持っている不思議な力をさぐろう

勝股 政雄（船橋市）

日 時： 2023 年 11 月 23 日（木） 9：30～12：00、天気：晴れ

場 所： 21 世紀の森と広場（シアター・みどりの里）

参加者： 17 名（大人 17 名）

講 師： 勝股政雄・長谷川依子、スタッフ：三嶋・渋谷

この日はまさしく小春日和で、風もなく暖かい日となった。この講座はパークセンターが主催し、東葛しぜん観察会が講師となって開催された。

初めにシアターで座学の時間を 1 時間ほど設けた。スライドを見てもらいながら、まず被子植物の「タネのつくり」を説明した後、水分を吸わせた黒豆を手にとってもらい、種皮と胚の実物を確認してもらった。スライドを見ての理解と合わせて実物に触れることにより、理解が深まったと感じた。次に、タネに含まれる栄養分について説明した。炭水化物・脂質・タンパク質のうち、炭水化物がどのようにして栄養分として利用され、タネの発芽に至っているのかを考えてもらった。植物は光のエネルギーを取り込み、デンプンという形でタネに貯蔵し、芽生えの時には、デンプンを分解してエネルギーを取り出し、細胞分裂に利用している。エネルギーについて触れたことによって、栄養分の利用の理解が進んだのではないかと思っている。次にコスモスを例に挙げて、秋に落としたタネが、なぜ春になるまで芽を出さないのかについて説明した。コスモスは、タネが熟す頃になるとアブジシン酸というホルモンを作り、休眠に入るという。そして寒さがきつい冬の時期が過ぎて春になったことを感じ取り、今度は、ジベレリンというホルモンを作り、発芽を誘導するという。遺伝子が冬の低温を記憶しその後気温が上がった春を感じ取り、ホルモンの量を調節していることまでわかっているそうだ。タネは、実に不思議な能力を持っていると感じられる。コスモスが長い進化の過程で獲得した能力なのだろう。

最後に、タネ散布の様々な工夫について、「風を利用する・動物を利用する・水を利用する・自力で飛ばす」と、4つの方法に分けて説明した。それぞれの工夫をスライドで説明し、なおかつ、オオオナモミなどの実物を虫眼鏡で見てもらった。

座学を終えてからAとBの二班に分かれて野外に出て、「シロダモの実はどんな鳥が食べるの？」「カキノキのタネは誰が運ぶの？」などと話しながら、和気あいあい楽しく秋の公園を散策した。目についたジュズダマ、コセンダングサ、コナラなどを、手に取って観察してもらった。そして、ケヤキやイロハモミジのタネを飛ばして、回りながらゆっくり落ちていく様を見ては感激していた。

最後にシアターに戻ってから個々に感想を聞いた。「外を歩く時の視点が広がった。」「タネが持っている力を感じた。」「説明がわかりやすかった。」などの感想を聞くことができた。



ハキダメギク、命名は牧野博士